

HPV ワクチンについての Q&A



Q.HPV(ヒトパピローマウイルス)ワクチンの効果はなんですか？また、効果はどれくらい続きますか？

A. HPV ワクチンを接種することにより、HPV 感染^{※1} や子宮頸がん、前がん病変を予防することができます。接種後の抗体価の推移から、ワクチンの有効期間は 30 年以上続くと考えられています。
※1)HPV 感染は、子宮頸がんのほか、コンジローマ(良性のイボ)や外陰がん、肛門がん、中咽頭がんの原因となります。

Q.ワクチンにはいくつか種類があるようですが、どう違うのでしょうか？



A. 令和 5 年 4 月より、従来の 2 価(サーバリックス)と 4 価(ガーダシル)に加えて、9 価(シルガード)が定期接種^{※2}として認められました。

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染で起こります。HPV は 200 種類以上あり、子宮頸がんを引き起こす高リスク型と良性腫瘍を引き起こす低リスク型があります。

ワクチン名		予防効果のある型	特徴
サーバリックス	2 価	16・18 型:高リスク型 (子宮頸がんにおける感染率 65.4%)	子宮頸がんを引き起こす高リスク型に効果がある。
ガーダシル	4 価	6・11 型:低リスク型 16・18 型:高リスク型 (子宮頸がんにおける感染率 65.4%)	子宮頸がんを引き起こす高リスク型と良性腫瘍を引き起こす低リスク型に効果がある。
シルガード	9 価	6・11 型:低リスク型 16・18・31・33・45・52・58 型 :高リスク型 (子宮頸がんにおける感染率 88.2%)	子宮頸がんを引き起こす高リスク型と良性腫瘍を引き起こす低リスク型に効果がある。

※2)定期接種…国が接種を勧奨し、市町村が接種を行わなければならないワクチンのこと



Q.キャッチアップ接種^{※3}の対象年齢ですが、今からでもワクチンを接種するべきですか？

A. HPV ワクチンの有効性が高いのは定期接種対象となっている小 6～高 1 の方になっておりますが、キャッチアップ接種の方にも有効です。

HPV(ヒトパピローマウイルス)は性交渉により感染するので、初めての性交渉よりも前に接種するのが最も効果的といわれていますが、性交渉を経験している方でも、既に HPV に感染しているとは限らないので、HPV ワクチンでカバーしている型の接種後の新たな感染を防ぐことができます。また、既になんらかの HPV 型に感染していても、今後の新たな他の HPV 型への感染を防ぐことができます。

※3)キャッチアップ接種…積極的勧奨を差し控えていた期間に定期接種対象者であった方(平成 9 年 4 月 2 日生まれ～平成18年 4 月 1 日生まれの女性)で HPV ワクチンの接種を3回受けていない方は、令和 7 年 3 月 31 日までの期間は、公費で接種を受けることができます。

Q. キャッチアップ接種の人で過去に中断していた人(1回または2回接種した人)は、どのように接種すればよいのですか？

A. 残りの回数を接種してください。

(2回目と3回目の間隔は従来通りとなります。接種間隔は、ワクチンの種類により異なるため、確認の上接種してください。)

Q. HPV ワクチンは接種しなくても、毎年子宮頸がん検診を受ければ、早期発見が出来ますか？

A. 検診(細胞診)を行った場合、子宮頸がんや前がん病変を有する人が検診で陽性を示す割合は、研究によって差はありますが、50~70%と十分に高いとは言えません。特に妊娠中の病変や、若年層に多い腺がんは、見逃される可能性があると言われてしています。

また、前がん病変や初期のがんのうちに発見されれば、手術によりがんを治せる可能性は高いですが、手術の影響で、子宮の入り口(頸管)が細くなったり閉じてしまうことや、その後の妊娠時に早産になってしまうなどのリスクがあります。

子宮頸がんのなかには、ワクチンで防げない種類のウイルスによるものもあるため、20歳を過ぎたら子宮頸がん検診を受けることも大切です。子宮頸がんの根本的な原因となる HPV 感染そのものをワクチンによってブロックして、がんにならないようにすることと、検診によりがんの早期発見をすることの両方が大切なのです。

Q. 海外での HPV ワクチンの接種状況を教えてください。

A. 世界の先進国における接種率は、北欧やオーストラリアでは特に高く(80%以上)、韓国では約70%、アメリカでは約60%となっております。日本では積極的勧奨を控えていた時期では1%以下という低い接種率でした。(令和2年からリーフレット等の個別通知を実施する自治体もあり、令和3年度は約10%という状況でした。)

ワクチンを接種する人が増え、社会の中で HPV ワクチンに対する免疫を持っている人が増えると、その感染症が自然に抑え込まれていく「集団免疫」という効果も期待できます。



Q. 副反応について教えてください。

A. HPV ワクチンは新型コロナウイルスワクチンと同様に筋肉注射です。接種後に見られる主な副反応としては、発熱や接種した部位の痛みや腫れ、注射による痛み、不安などをきっかけにした失神などがあります。多くの場合、症状は短期間で軽快します。横になって接種をしたり、緊張を和らげるような動作も有効です。

また、ワクチンを受けた方に、広範囲に広がる痛みや手足の動かしにくさ、不随意運動(動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまう)等を中心とする多様な症状が出現することが報告されていますが、頻度は非常にまれです。身体症状はあるものの、画像診断や血液検査の結果では、異常が見つからない状態(機能的な身体症状)であることが多く、「異常なし」と言われることに不安を感じる方もいらっしゃると思いますが、接種直後の痛みなどと同様にワクチン接種の不安などのストレスに関連した反応と考えられ、他のワクチンでも報告があります。なお、同様の多様な症

状は、ワクチンを接種していない方においても一定数存在するということも明らかになっています。

ワクチン接種後に気になる症状が出現した際には、かかりつけ医にご相談ください。原因となる異常がないか確認することが必要です。異常がなかった場合(機能性身体症状)、多くの方は時間の経過とともに症状が軽快・消失すると言われています。話を聞いてもらったり、診察や検査の結果についての説明を受けることで症状に対する不安等を軽減することも、症状の緩和のために大切です。また、軽い運動なども効果的と言われています。なかなか改善しない場合には、厚生労働省が指定している予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関^{※4}がありますので、かかりつけ医にご相談ください。

また、接種を受ける方が、納得し、不安なく接種を受けていただくことも大切です。接種を迷われている場合の相談窓口として、かかりつけ医はもちろん、牛久市保健センターもご利用ください。

※4)牛久市ホームページに資料の掲載があります。

Q.子宮頸がん予防接種の積極的勧奨を控えることになったのは、接種後に重い副反応が出た方がいたからだと聞きました。実際に重い副反応が出た方はいるのでしょうか。その症状について教えてください。

A. 実際に中学生の時に接種をして以来、全身の脱力感や関節痛、歩行障害などの症状に9年間苦しんでいる方がいらっしゃいます。厚生労働省が指定した協力医療機関を含め、さまざまな医療機関にかかりましたが、現在も治っていません。その方は、障害認定を受け予防接種健康被害救済制度を利用して生活しています。

一方で、積極的勧奨の差し控えから9年の間に、HPVワクチンの安全性・有効性に関して、国内外で様々な研究が行われました。HPVワクチンの安全性について特段の懸念が認められないことや、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められ、接種後に生じた多様な症状に関わる診療体制が整えられたため、令和4年4月より積極的勧奨が再開しました。子宮頸がんは若い方でも発症し、早期発見で命が助かったとしても、子どもが産めなくなったり、治療の副作用に長期間苦しむことのある恐ろしい病気です。

HPVワクチンの効果とリスクについて十分に理解した上で、接種をご検討ください。上記にも記載しましたが、牛久市保健センターでは接種を迷う方のご相談も受け付けておりますので、お気軽にご連絡ください。

<参考文献・資料>

日本産婦人科学会ホームページ

https://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=4

第31回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、平成29年度第9回薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会(合同開催) 資料(資料17 HPVワクチンの有効性について)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000186285.html>

厚労省ホームページ HPVワクチンに関するQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_qa.html

みんパピ みんなで知ろう HPV プロジェクトホームページ

<https://minpapi.jp/>

MSD Connect 子宮頸がん HPV 感染

<http://www.msconnect.jp/products/gardasil-silgard9/column/cause/#hpvSection>